

県立高等学校におけるBYODによるICT活用

県教育庁教育振興部学習指導課ICT教育推進室

社会生活のあらゆる場面でインターネットやデジタルツールが必要不可欠となる中、情報や情報手段を主体的に選択し活用するために必要となる情報活用能力は、新学習指導要領において、言語能力や問題発見・解決能力等と並び、学習の基盤となる資質・能力として位置付けられている。学校では、こうした能力を、体系的に育成していくことが重要である。

県教育委員会では、「GIGAスクール構想」の理念を踏まえ、県立高等学校においては、生徒が所有するタブレット端末やノートPC等をBYODにより活用するとともに、県が整備するタブレット端末も併用して、1人1台端末環境でICTを活用した教育を推進することとし、そのための環境整備として、新たな学習系ネットワーク（以下「BYODネットワーク」という。）を整備した。

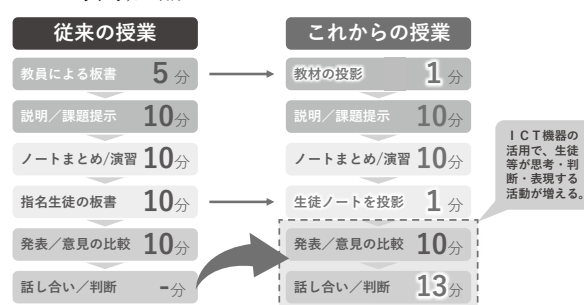
各学校においては、BYODネットワークによる「1人1台端末」の環境を適切に活用し、これまでの教育実践に加えて、個別最適な学びや協働的な学びの向上を目指した授業改善等を進めることが期待されている。

1 ICTを活用した教育でできること

授業において、生徒がICTを活用する場面として、次のようなことが挙げられる。

- 生徒の興味・関心を高め、効率的な学習を行う→画像や動画の利用
- 協働的な学び→チャット、フォーム、ファイルの共同編集で意見・考え方を共有
- 個別最適な学び→オンライン小テストなど、習熟度に応じた指導支援

- 地理的・時間的制約を超えた学習→オンライン学習や遠隔授業
- 授業を効率的に行う→情報収集、教材準備の時間短縮



ICTを活用した授業改善の例

2 BYOD端末の活用例

県教育委員会では、県立高等学校の全生徒にOffice365のアカウントを付与し、ICTを効果的に活用した学習活動を行う環境を整えている。Teams等の学習支援ソフトを活用した学習活動の例として、次のようなことが挙げられる。

- クラス全員が個人の考えを投稿し合う。
- 動画や画像を、視聴し、理解を深める。
- 教員が課題を配信し、生徒は取り組んだことを写真に撮って提出する。
- オンラインで、地理的・時間的制約を超えた相手と学習する。
- クラスの全員がフォームに回答し、クラス全体の考え方を把握する。
- オンライン小テストを行い、クラス全体の理解度を確認する。
- 論文やプレゼンテーション資料を作成し、発表する。
- グループで協働作業し、グループの意見をまとめた資料を作成する。

令和4年度調査研究事業「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究～1人1台端末の活用を通して～」について

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

前回の蓮号で、今年度取り組む調査研究事業の概要について掲載させていただいた。その後、5月11日、当センターにて第1回調査研究協力員会議を開催した（助言者として山武市立成東東中学校校長相川浩一先生、八千代市立萱田小学校教諭黒飛雅樹先生、また横芝光町にある2つの中学校、5つの小学校より計7名の研究協力員が参加）。

本会議の目的は、研究協力員の方々に本研究事業の概要と取組内容を理解していただくことにあった。その一つとして日本大学文理学部教育学科教授の中橋雄先生を講師としてお招きし、本研究主題をテーマにオンラインにて御講話いただいた。その中では、1人1台端末の持ち帰りについて期待されることや事例について、そして実施に至るまでの必要なプロセスについてお話をいただいた。また、取組内容として「活用のスモールステップの作成」と「慣れるための活用」の2つの取組について説明し、協議を行った。

1 活用のスモールステップの作成

活用のスモールステップは「基本操作」と「授業等校内での具体的活用」の2点について各学校一つずつ作成することを予定している。昨年度末に横芝光町の各学校が回答したICT活用に関する課題の中には、活用の技能について児童生徒の発達段階から見た使用程度が不明であることや先生方の技能に差があること、また研修が不足していることが挙げ

られていた。これに対して、活用方法や場面がより明確になるスモールステップを作成することで、先生方がどのような技能を身に付けておけば良いのかがはっきりし、研修内容も定めやすくなるのではないかと考えている。また、各学校で作成したスモールステップを共有し調整することで、小中で一貫した繋がりのあるスモールステップになることを狙っている。

スモールステップ作成の参考に、基本操作にはどのようなものがあるか、そして、それはどんな使い方ができるか例を示した。第2回研究協力員会議で、各学校で作成したステップについて情報共有し、各学校、改善や調整を加えていただく。 ※例示資料 →



2 慣れるための活用

前述した先生方が感じる端末活用技術の差を解消することや授業等学習活動でよりスムーズな端末活用を実現するためには、学習活動以外でも日常的に端末を活用し、慣れていくことがその近道になるのではないかと考えている。横芝光町の学校全体として、また各学校としてみんなで共通理解を図り、取り組めることは何か協議を始めた。

1回の会議で決められることや意思疎通を図れることには限りがある。そこで、Microsoft Teamsを利用し、いつでも情報交換ができる体制を整えている。取り組むことで見えた課題を一つ一つ改善していきたい。

◎◎ 講師派遣のお知らせ ◎◎ 県内の先生方を全力でサポートします！

- GIGA 端末・クラウドを活用して協働学習をできるようにしたい
- プログラミング教育をさらに進めたい
- 情報モラル教育を推進したい

等

教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研修講師を承ります。
詳しくは、県総セ Web > 学校支援／授業支援 > 情報・ICT教育 > 学校支援をご覧ください。

